

要旨

スマートフォン上の親指によるポインティングとスワイピングのタスクパフォーマンスに関する研究

森山 広希

現在スマートフォンの普及率は増加傾向にある。日本では 2014 年から 2015 年でスマートフォン上の世帯普及率が 64.2%から 72.0%に増加している。スマートフォンを利用する際の持ち方は 3 種類に分けることができる。片手で持ち、持った手の親指で操作する方法、片手で抱きかかえるようにスマートフォンを持ち、もう一方の手の親指、もしくは人差し指で操作する方法、両手で持ち操作する方法の 3 つである。そのうち一番利用されているのは、片手で縦に持ち親指で操作する持ち方の 49%である。しかしこの持ち方は他の持ち方に比べてタスクの達成時間が遅い、エラー率が高い、頻繁に持ち替えが発生すると言った問題がある。そして画面上に到達困難な場所ができてしまうという調査も存在している。しかしながらその研究ではターゲットに注目したエラー率を表示しているがその方向については調査されていない。本研究ではスマートフォンの片手操作における操作の方向とユーザのパフォーマンスの関係について調査する。この研究により操作の方向とユーザのパフォーマンスの関係を明らかにすることで、より良いスマートフォンインタフェースの作成に期待できる。

キーワード キーワード スマートフォン, 親指入力, 操作の方向